

# ICTを活用した授業改善



主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTを適切に活用した学習活動の充実が求められています。

本研修では、ICTを活用した授業改善の考え方やICTの活用例、授業づくりの参考となる資料などについて説明します。

## ■ 教科等の指導におけるICT活用の意義

【学習指導要領総則】 **主体的・対話的で深い学びの実現**に向けた授業改善

情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの**情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。**

## 学習場面に応じたICT活用の分類例

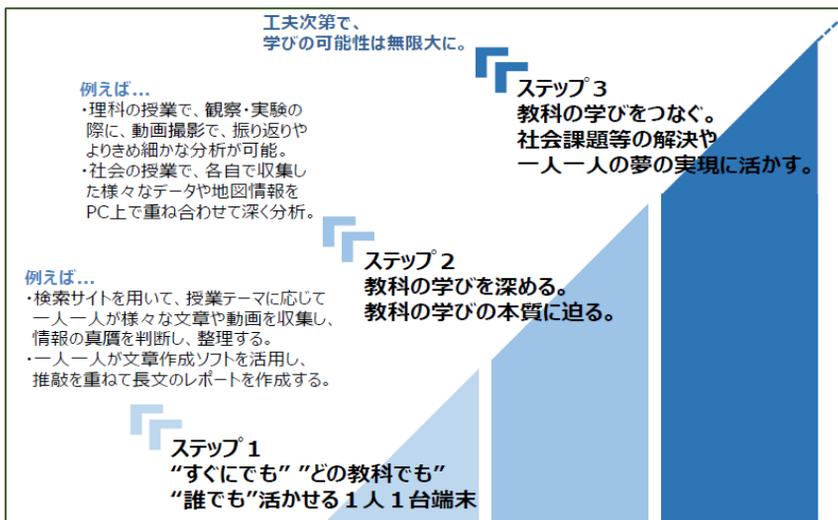
ICTを効果的に活用した学習場面は、「一斉指導による学び（**一斉学習**）」、「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（**個別学習**）」、「子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（**協働学習**）」の3つに分けられます。

これらを更に細分化すると、右に示した10の分類例に分けられます。研修映像では、分類例に沿ってICT活用の具体を紹介しているので参考にしてください。

A 一斉学習		B 個別学習		C 協働学習	
<b>A1 教員による教材の提示</b>  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	<b>B1 個に応じる学習</b>  一人一人の習熟の程度等に応じた学習	<b>B2 調査活動</b>  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	<b>C1 発表や話し合い</b>  グループや学級全体での発表・話し合い	<b>C2 協働での意見整理</b>  複数の意見・考えを議論して整理	
<b>B3 思考を深める学習</b>  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	<b>B4 表現・制作</b>  マルチメディアを用いた資料、作品の制作	<b>B5 家庭学習</b>  情報端末の持ち帰りによる家庭学習	<b>C3 協働制作</b>  グループでの分担、協働による作品の制作	<b>C4 学校の壁を越えた学習</b>  遠隔地や海外の学校等との交流授業	

参考：「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（文部科学省）

## 「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容



※参考：GIGA スクール構想について（文部科学省）

1人1台端末や高速通信環境を活かした学びの変容に向けては、見通しをもった継続的な取組が大切です。

左の資料のとおり、文部科学省では、学びの変容に向けたICT活用のイメージを三段階で整理しています。

こうした資料を参考に、まずは**学校全体で“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 生かせる ICT活用**に取り組むことが考えられます。